年間授業計画　新様式例

高等学校　令和４年度（１学年用）　教科　　国語　　科目　言語文化

教　科：　国語　　科　目：　言語文化　　単位数：　2　単位

対象学年組：第　1 学年　　組～　　組

教科担当者：

使用教科書：（　大修館書店『言語文化』　　）

教科　国語　　の目標：

【知識及び技能】生涯にわたる社会生活に必要な国語について，その特質を理解し適切に使うことができるる資質・能力を次のとおり育成することを目指す。

【思考力、判断力、表現力等】生涯にわたる社会生活における他者との関わりの中で伝え合う力を高め，思考力や想像力ようにする。

【学びに向かう力、人間性等】言葉のもつ価値への認識を深めるとともに，言語感覚を磨き，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，生涯にわたり国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。

科目　言語文化　　の目標：

【知識及び技能】	【思考力、判断力、表現力等】	【学びに向かう力、人間性等】
生涯にわたる社会生活に必要な国語の知識や技能を身に付けるとともに，我が国の言語文化に対する理解を深めることができるようにする。	論理的に考える力や深く共感したり豊かに想像したりする力を伸ばし，他者との関わりの中で伝え合う力を高め，自分の思いや考えを広げたり深めたりすることができるようにする。	言葉がもつ価値への認識を深めるとともに，生涯にわたって読書に親しみ自己を向上させ，我が国の言語文化の担い手としての自覚をもち，言葉を通して他者や社会に関わろうとする態度を養う。

	単元の具体的な指導目標	指導項目・内容	領域 話・聞	書	読	評価規準	知	思	態	配当時数
1学期	1　古文に親しむ ・物語の展開をとらえる。 ・話のおもしろさを味わう。	【教材名】 宇治拾遺物語 『児のそら寝』	○	○	○	・文章の意味は、文脈の中で形成されることを理解している。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。	○	○	○	10
	・作品の人物像を理解する。 ・物語の結末について考えを深める。	【教材名】 宇治拾遺物語 『絵仏師良秀』	○	○	○	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
	2　人との交わり ・　物語の内容を読み取り、登場人物の関係を理解する。 ・　歌に込められた登場人物の思いをとらえる。	【教材名】 伊勢物語 『芥川』	○	○	○	・我が国の言語文化に特徴的な語句の量を増し、それらの文化的背景について理解を深め、文章の中で使うことをとおして、語感を磨き語彙を豊かにしている。	○	○	○	10
	・文学史としての歌物語を理解する。 ・和歌の修辞技法と、その効果を理解する。	【教材名】 伊勢物語 『あづま下り』	○	○	○	・作品に興味をもち、旅の行程を理解したり、和歌の修辞技法とその効果を理解したりしようとしている。 ・本歌取りや見立てなどの我が国の言語文化に特徴的な表現の技法とその効果について理解している。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
2学期	3　旅と人生 ・日記の形態や書き手の設定に着目し、その効果について考える。	【教材名】 土佐日記 『門出』	○	○	○	・作品に興味をもち、日記という形態や書き手の設定に着目しながら読もうとしている。 ・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。	○	○	○	10
	4　私たちと漢文 ・漢文と我が国の言語文化の関わりについて関心をもつ。	【教材名】 訓読のきまり ①返り点の種類と用法 ②再読文字の種類と用法	○	○	○	・漢文の学習に興味をもち、漢文と我が国の言語文化の関わりについて関心をもっている。 ・漢文訓得のきまりを理解しようとしてい	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
	5　旅と人生② ・作者にとって旅がどのような価値を持つものであったのかを理解する。	【教材名】 更級日記 『あこがれ』	○	○	○	・古典の世界に親しむために、作品や文章の歴史的・文化的背景などを理解している。 ・作品に興味をもち、作者の旅に対する思いを読み取ろうとしている。	○	○	○	10
	6　想いを表す言葉 ・自然をうたった漢詩を読み味わい、表現の工夫をとらえる。	【教材名】 自然 『静夜思/江雪/山行』	○	○	○	・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	○	○	○	
	定期考査						○	○		1
3学期	7　語り継がれる歴史 ・登場人物の会話や行動を整理し、どのように描かれているかを読み取る。 ・『平家物語』に特徴的な文体のリズムを味わう。	【教材名】 平家物語 『木曽の最期』	○	○	○	・作品に興味をもち、登場人物の人物像や文体の特徴をとらえようとしている。 ・古典の世界に親しむために、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまり、古典特有の表現などについて理解している。	○	○	○	12
	定期考査						○	○		1 合計